



既存棟(右奥)の隣で着工したカット野菜生産工場の新棟



倉敷青果荷受組合が手掛けるカット野菜

台風の影響で野菜が高

果組 青果 倉敷 倉受

カット野菜工場増強

来年2月完成 年産能力3割向上

食材加工・卸の倉敷青果荷受組合(倉敷市西中新田)は、カット野菜の生産工場を増強する。外食業者や総菜といった業務用に加

新棟は鉄骨2階延べ1325平方メートル、本社内の既存棟(鉄骨平屋2280平方メートル)に隣接。岡山産を中心としたキャベツ、ネギ、レタスをカットするスライサーのほか、自動包装設備や異物検出機などを導入し、年間処理能力は約1900トン、30人程度の新規雇

用を見込む。8月に着工しており、来年2月に完成予定。総投資額は3億8千万円。カット野菜は生産者と年間契約を結んでいるため、価格が安定。単身や共働き世帯の増加を背景にニーズが高まっていることに加え、長雨や

食と農

騰した昨年夏以降、需要が急増しているという。倉敷青果荷受組合は1998年にカット野菜部門を設けて以降、順調に業容を拡大。2016年の同部門売上高は43億円と5年前の約2倍になっている。

同組合は原料の安定確保のため、農地所有適格法人(旧・農業生産法人)「クラカアグリ」を昨年10月に設立したほか、契約農家も順次増やしていく方針。同組合の富本尚作理事長は「原料と製造部門をそれぞれ強化

し、より質の高いカット野菜を提供していきたい」と話している。同組合は1946年設立。資本金2700万円、売上高130億円(16年12月期)。従業員約280人(パート含む)。(橋本直樹)